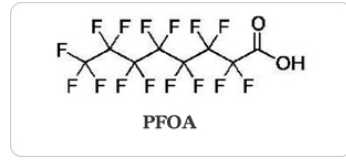
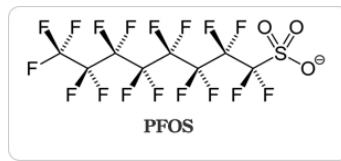


問題の化合物は PFOS、PFOA（難分解性有機フッ素化合物界面活性剤）

主骨格に水素原子を一つも持たない化合物です。見るからに「撥水性あり」といった構造です。この水と相性の悪そうな化合物が河川中に確認されたというのは漫画みたいな話ではあるのですが、水に不溶という表現自体があいまいということでしょう。不溶といってもごく微量は水に溶けるものです。



環境省の令和2年6月11の記事です。

調査結果の概要

調査を実施した 171 地点のうち、13 都府県の 37 地点において、水環境の暫定的な目標値（PFOS 及び PFOA の合算値で 50ng/L）の超過が確認されました。

なお、暫定的な目標値を超過した地下水・湧水は、いずれも飲用用途の水ではありませんでしたが、関係地方公共団体に対し、井戸の所有者等への飲用に関する注意喚起を依頼しました。

4. 今後の対応について
環境省は、引き続き、関係省庁及び関係地方公共団体と連携し、人へのばく露防止のため、目標値超過時の飲用に関する注意喚起や汚染状況の把握、PFOS 等を含有する泡消火薬剤の在庫量調査及び代替促進等の取組を進めていくこととしています。

日本経済新聞 2020.6.13

**有機フッ素化合物
13都府県で超過**

環境省、河川など37地点

環境省は12日までに、有害性が指摘されている有機フッ素化合物の一種「PFOS」「PFOA」が全国13都府県の河川など37地点で、国の暫定目標値を超過して検出されたと発表した。

これらの化合物は長期間の飲用で健康に害を及ぼす恐れもあるとされ、環境省は5月に暫定目標値を定めた。同省は飲用しないよう各自治体に注意を呼び掛ける。

環境省は、2019年度、これらの化合物を含む泡消火剤を保有する米軍関係施設や廃棄物処理場、下水処理場など、化合物の排出源となり得る施設付近の河川、地下水171地点を調査した。PFOSとPFOAの合計が全国で最も高かったのは大阪府摂津市の地下水で、目標値の約37倍。次いで沖縄県沖縄市の川で約30倍となった。米軍厚木基地に近い神奈川県大和市の川では、目標値の4倍超を検出した。

沖縄県では4月に米軍普天間基地で泡消火剤の大量流出が起き、同基地のある宜野湾市でも湧き水計3地点で超過した値が検出された。

有機フッ素化合物は極めて分解されにくく、環境中や取り込んだ生体物の体内に長く残留する。泡消火剤や航空機用オイルなどに含まれている。